

医療機器産業ビジョンに関する懇談会資料

ボーダレス時代における医療機器産業の振興

—「真の国際競争力とは何か」が問われるとき—

2003年2月13日

日本医療機器同友会代表幹事

松本 謙一

結論:「市場」を拡大すれば「産業」は伸びる！」

— 相乗効果の効用 —

<条件その1>

- 1) 国際的に魅力ある研究開発環境の整備には、「国内環境」のみにこだわらない。
- 2) 国内の中堅・中小メーカーの国際競争力は、不十分なるも伸びる余地は十分ある。但し、それには海外との医工連携も含め、研究費の規模は少なくとも「0.5～1億円/1件(国内側)」は必要。
・SBIR(中小企業技術革新制度)の活用もその一例
- 3) HTA(技術評価)の仕組みと人材
- 4) 規制の国際的整合化——「GHTF/GMDC=2003年5月 東京」

2003-2-13配布 2

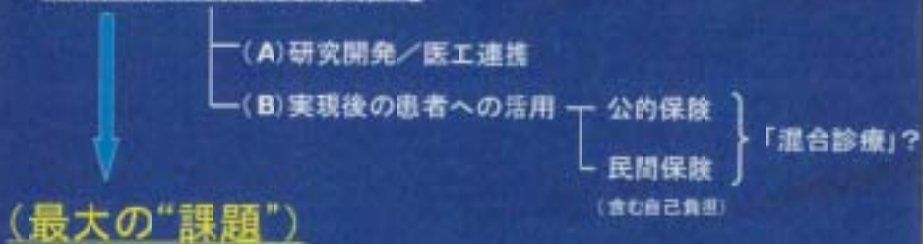
— 相乗効果の効用 —

<条件その2>

5) 日本でのベンチャー企業に対する見方は、まだ「たかが中小企業」の感じがあり、優遇税制も含め、自己責任感の強い投資家市場を小規模でもヘルスケア分野専門で育成していく方法もある。政府の後押しも不可欠。

6) 海外での展示会には在外公館も含め、政府の後押しも肝要。

7) 先端医療の「財源(費用負担)」



2003-2-13 松本 3

「真の国際競争力とは何か」を考える上での大前提

現代=「ハイブリッド」そして「業際化・学際化・国際化」の時代

- 1) ハイテク・ローテク
- 2) 大企業・中堅企業・中小企業
- 3) 国産系・外国系
- 4) 同業種・異業種
- 5) ハード・ソフト
- 6) 国産(輸出)・輸入
- 7) 研究開発・製造・輸入・販売・サービス

官民
一
体
の
戦
略

2003-2-13 松本 4

〈医療機器産業活性化のキーワード〉(順不同)

- 1) 国民(患者)の為の医療
- 2) 先端医療と基本医療のバランス
- 3) 予防・診断・治療のバランス
- 4) グローバル化
- 5) 「ヘルスケア(医療・福祉)」市場の拡大＝「医療機器産業」の振興
- 6) 「医療機器＝多様多様」への対応
- 7) 「90%＝中小企業」への対応ーベンチャーの育成(もっとインセンティブを)
- 8) 環境保全(単回使用品の再使用の為の費用負担等も含む)
- 9) バーコード・データベースの活用による流通の合理化(メーカー・ディーラー・医療機関の協力)
- 10) 規制緩和
- 11) 医療経済

→ 「医療の質の向上と医療経済」を考える時、「安全性・信頼性・有効性」の遵守以外は
医療にもっと「自由」を!
(例) 混合診療、医療特区構想等!

2003-2-13 松本 5

〈医療機器産業における中堅・中小企業の生きる道〉

(順不同)

- 1) 「専門特化」した上での「トータルサプライヤー」へ
ー ワンストップショッピング対応 ー
ー 地球規模での「ニッチの巨人」になれる夢 ー
- 2) 海外との産学協同
- 3) 内外企業とのアライアンス
- 4) 海外での開発・製造・販売拠点の推進
- 5) ベンチャー精神の高揚
- 6) **日本版SBIR(中小企業技術革新制度)の活用促進**

(注)SBIR(Small Business Innovation Research)

米国が経済再生の為、1982年にSBIR法を制定し、中小・ベンチャー企業の育成に大きな成果をあげた。

2003-2-13 松本 6